



踊る
生かす
生かされる

豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2020
ダンス・ダンス

Dance Residence

敷地 BATIK Arche 京極朋彦

穂の国とよはし芸術劇場PLAT / 豊橋市

BATIK 成果発表会より



敷地理
稽古場公開の様子

敷地理 BATIK Arche 京極朋彦

たくましく 生き抜く身体と生命の輝き

豊橋アーティスト・イン・レジデンスは「ダンス・レジデンス」と題したとおり、身体表現を追求する国内外のアーティストを対象に2017年度から実施してきました。参加アーティストは一定期間、穂の国とよはし芸術劇場PLATで創作や稽古を行うため市内に滞在。PLATは館内の設備を提供するだけでなく、リサーチや取材のコーディネート、宿泊施設の確保など活動全般をサポートします。対してアーティストは、市民向けワークショップの実施、稽古場や成果発表会の公開という形で、豊橋に文化的還元を果たしてくれます。

過去3回の実績が広く知られてきた結果、ダンス・レジデンス2020は国内のみならず韓国やドイツ、アメリカなどから16件の応募がありました(海外在住の日本人アーティストを含む)。しかし2020年当初から新型コロナウイルス感染拡大の波が日本にも押し寄せ、海外からアーティストを迎え入れることは断念せざるを得ませんでした。また国内アーティストに限定しても、市民参加の方法など試行錯誤の連続。そんな状況においても、新世代と言えるアーティストの新しい試みに手応えを得られたり、あるいは経験豊富なアーティストの新生の瞬間に立ち会えたり、うれしく誇らしい出来事がたくさんありました。何より、ダンス本来の原初的なパワーをあらためて実感できたことは、この事業の意義を再確認することにつながり、逆境における一筋の光となりました。世界中の人々が一緒に、生命について考えることとなった現在。それは身体を考えることとも言えるのではないのでしょうか。命を燃やし、身体を光り輝かせるダンスは、私たちの行く先を照らしてくれるかもしれません。

感染症対策の徹底と 新たな実践

ダンスをはじめとした舞台芸術は、アーティスト、スタッフ、観客が対面することを前提とした部分が大きく、ダンス・レジデンスにおいても同様の課題はありました。しかし、PLATでは常に新型コロナウイルスの情報を収集しながら最善の感染症対策を行い、無事すべてのプログラムを終えています。一方、この機にオンラインの活用にも取り組み、創造の新たな可能性が見えてきたのも収穫でした。



井田亜彩実・黒須育海 稽古場風景



敷地理 稽古場風景



穂の国とよはし芸術劇場PLAT



京極朋彦 ダンスワークショップ「町角ダンススケッチ 豊橋編」の様子

困難な時にも 街に活気と潤い

自粛生活の最中、心身を健やかに維持するため運動を始めた人は多いでしょう。人は街をかたちづくる最大の要素。市民が元気であれば、豊橋も元気であり続けられます。ダンス・レジデンスではワークショップなどを通じて身体への様々なアプローチを紹介し、成果発表会では身体の持つ美やエネルギーで観客を圧倒しました。ダンスの「本番」ではなくても「本物」は、観る人の心に活気や潤いを与えてくれるのです。

ダンス・レジデンス
2020

Dance Residence

感性と知性で 未来を拓く

ダンス、特に時代を色濃く反映したコンテンポラリーダンスは、身体性や芸術性はもちろん社会性も鋭く、示唆に富んでいます。観客は感性と知性を働かせ、想像を豊かにします。ダンスやアートは今すぐ何かを解決するものではありませんが、明日どう生きるかのヒントをもたらしてくれることはあります。明日とは未来への第一歩。磨かれた感性と知性は世界の混迷を打ち破り、未来を切り拓くと信じます。



BATIK「SIDE B」レクチャー&パフォーマンスの様子



京極朋彦
成果発表会より

ニューノーマル? ニュージェネレーション! ニューワールド!!



京極朋彦 成果発表会より



京極朋彦 成果発表会のトークイベントの様子



BATIK『春の祭典』成果発表会より



敷地理 オンラインワークショップ「Digital Garden」のモニター上の様子

ヒトとモノの狭間で感覚を共有する

敷地理のオンラインワークショップ「Digital Garden」には、豊橋はもちろん東京、大阪、新潟、秋田などからも参加があり、オンラインの強みを存分に発揮したダンス・レジデンスの新展開となりました。スマートフォンとZOOMアプリを利用したこのワークショップは、オンライン講座に多い座学ではなく実技です。参加者は自分の手を映すだけで、手とスマホの動きによって驚くほど創造的な世界が出現。デジタル空間で平面化された身体に、「人と物」両方の目を向ける敷地の思考は新鮮な感覚を呼び覚ました。コロナ禍において他者とのように感覚を共有していくのか、それはアートの世界のみならず社会全体の大きな課題となりつつあります。敷地はかねてから、動きを同一化することで感覚の同一化も可能か、あるいは感情と感覚の関係といった主題に向き合い、他者との共存の仕方に高い関心を寄せてきました。世界が変容する中で、敷地の取り組みは新時代の共生を示唆するものともなったのではないのでしょうか。

PLATとの実験で、世界が手の中に!?

敷地理のオンラインワークショップは、一度目の緊急事態宣言でPLATが休館となった期間、敷地と当館スタッフが実験を重ねて重ねたのち、7月に本番当日を迎えました。その成果は前述のとおりですが、敷地は自身も含め20代ばかりのメンバーで滞在制作を行ううち、さらに刺激を受け、創造の源流を発掘した様子。彼は帰京すると、オンラインの新作を次々と発表しています。中でもTPAM(国際舞台芸術ミーティングin横浜)2021ではオンラインワークショップさながらに観客が参加できる形式の作品を上演して話題を集めると同時に、英語上演も実現したことで世界という舞台がぐっと近くなり、作品の可能性をますます広げました。スマホ片手にアート体験——。オンラインによる芸術活動はコロナ禍の苦肉の策と捉えられがちですが、予想だにできなかった発見、発展があったのも事実。私たちは見識を新たにしつつ、敷地らの新機軸に貢献できたことを大いに喜びました。

新型コロナウイルスの影響で、劇場は経験したことのない対応に追われました。ライブ・エンタテインメント業界ではオンライン配信も増えてきましたが、それをニューノーマル、新しい常識と呼ぶには早過ぎます。安全に集う方法はまだまだ模索できるはず。ダンス・レジデンス2020では、新世代のアーティストが新たな感覚やアプローチで創作を展開。また、経験豊富なアーティストも愚直なまでの姿勢で逆境に立ち向かい、それぞれの新世界を目指しました。彼らの思考や信念は、参加した市民の心を揺さぶったに違いありません。

アジア、世界を捉え直す新たな考察

京極朋彦は日韓共同制作を予定していることから、豊橋周辺に暮らす在日韓国人の方々に取材を行いました。また、市内在住の音楽評論家・小川真一さんに韓国音楽の魅力についても話をうかがっています。日韓関係は歴史問題とともに語られることが多いですが、京極が見つめているのは、もっとベーシックな生活や文化、そして日本との共通点や相違点です。言語や風土、家族やコミュニティに対する考え方、代表的な文化の背景や発展など、生活と密着した素朴な問いが京極作品の題材となっていきます。それは決して声高なメッセージではないけれど、成果発表会を見学した参加者は自由にイメージを膨らませ、終了後のトークイベントでも活発な質疑応答が繰り広げられました。アジア、さらには世界を新たな観点で探る京極は、新時代を担うアーティストの一人となるはずです。

踊らされず、踊りきって喝采!

ニューノーマルという言葉が登場しても、従来の価値観や方法をすべて一変させるということではないでしょう。ダンス・レジデンス2020ではプログラム一つひとつの実現性を精査して、感染症対策のため臨機応変にアレンジも行いました。そんな中で黒田育世率いるBATIKには、あらためて劇場の役割や存在意義を考えさせられました。彼女たちは「見せる」ということに徹底した美学を持っています。たとえコロナ禍であっても、日々の情報に一喜一憂して身を縮ませるのではなく堂々と胸を張り、できることを考え、実行に移したのです。特に『春の祭典』は試演レベルとは思えない完成度で、その肉体の躍動、美しさ、根源的エネルギーに、見学した参加者は拍手喝采! ダンス・レジデンスの主催者として誇らしく感じる半面、ダンスや公演、アーティストとの関わり方など再確認することの多い現場ともなりました。

経験×挑戦＝新生

ダンス・レジデンスでは、豊橋という未知の環境に身を置いたことで新しい試みを見せるアーティストもめずらしくありません。アートの新陳代謝には外的要因が必要な時もあるもの。今回は国内外で活躍してきたアーティストやカンパニーが、過去の経験を踏まえつつ挑戦的な創作に取り組みました。そして彼らは新たに生まれ変わる＝新生に成功したのです。これはアーティスト側に限ったことではなく、市民側にも近い体験が可能でした。ダンスへの挑戦が、知っているはずの街の見え方を一新してくれることもあるのです。



BATIK「鼻靴下がピアノに聴いた赤い場所のささやかなお話」デモンストレーション&ワークショップの様子



BATIK「SIDE B」レクチャー&パフォーマンスの様子



黒須育海 シニア向けワークショップ「香りで身体が動き出す」の様子

実績あるカンパニーの格闘

黒田育世の主宰するカンパニー、BATIKは非常に精力的なプログラムを遂行しました。『鼻靴下がピアノに聴いた赤い場所のささやかなお話』のデモンストレーション&ワークショップでは黒田の最新作を、『SIDE B』のレクチャー&パフォーマンスでは黒田が初めて振付して数々の賞に輝いた記念碑的作品を、それぞれ言葉と身体でひもときました。両方に参加した人は、彼女の20年に及ぶ活動を見渡すような機会となったはずです。BATIKは現在、若手が多数を占める過渡期にありますが、ここ豊橋でストラヴィンスキーの歴史的傑作『春の祭典』に初めて挑みました。日本のコンテンポラリーダンスを常に刺激してきた黒田が、コロナ禍の制限とも闘いながら自身の美学・哲学を貫いた結果、私たちは「新生BATIK」に出会うことができたと思います。なお、BATIKのプログラムには名古屋、静岡などからも参加があり、観客の飢餓感にも応える好機となりました。

シニア世代が湧いた2方向の出会い

Archeの滞在メンバー、黒須育海はコンドルズ所属でもあり、現在はプッシュマンを主宰する多忙ぶり。異形な身体を探求する独自の世界観で国内外の賞にも輝いてきました。黒須は65歳以上のシニア世代を対象にワークショップ「香りで身体が動き出す」を開催。彼にとってシニア向けワークショップは初めての挑戦でしたが、11人の方が集まりました。コンテンポラリーダンスになじみの薄いシニア世代にとって、香りを題材にしたワークショップは親しみやすく楽しい体験となりましたが、それ以上に黒須自身の収穫も多かった様子。また、コロナ禍ということもあったからでしょうか、同世代が集まって意見を交わしたり、一緒に身体を動かすこと自体に喜びを感じた参加者もいました。子どもか孫ほど歳の離れたアーティストとの出会い、同世代の仲間との出会い、どちらもシニアのみなさんを元気づけたことは間違いありません。



Arche 成果発表会より



世界を知るダンサーと愛知の人材がコラボ

Archeの井田亜彩実はダンス先進国イスラエルで研鑽を積み、帰国後、同カンパニーを旗揚げしました。彼女は今回まず黒須育海を迎え入れ、新作デュオに挑戦。このデュオは海外公演も視野に入れているので、豊橋で生まれた作品が世界に羽ばたいていく過程を見ることにもなりました。なお、井田は2021年2月、ダンスの世界的プラットフォーム「横浜ダンスコレクション2021」のコンペティションIにて奨励賞を受賞。今後ますますの活躍が期待されます。さらに彼女は豊橋滞在を最大限に活かすべく、愛知県等に在住のダンサーたちとも創作。海外で培った経験を地元のアーティストと共有しました。アーティストは常に新陳代謝を繰り返しながら、より高みを目指します。ダンス・レジデンスでは、そのプロセスを公開することで創作の裏側を知ってもらうとともに、豊橋が偉業の出発点となるかもしれない瞬間に立ち会ってほしいと考えています。

モノとカラダを巡って街を行進&更新

京極朋彦のダンスワークショップ「町角ダンススケッチ 豊橋編」は、ダンスや身体表現を通じて街の捉え方に変化を促しました。参加者は市内を歩き回って、街を構成している具象のパーツをスケッチ。劇場に戻ると、その形やそこから誘発される行動、「そこにはないものが、もしそこにあつたら」というイメージから誘発される動きまで、思い思いに身体で表しました。日々を豊橋で過ごす人にとっては、当たり前のように知っている場所。それは参加者それぞれの「経験」に裏打ちされたものですが、ダンスへの変換に「挑戦」したら、街もなんだか新鮮に見えてきて……!! 参加者の中には「これを応用して市民劇に取り入れるのはどうか?」というアイデアをアンケートに書いてくださった方もありました。京極だけでなく敷地にも言えることですが、彼らはダンスに付き物の「振付」に対して従来とは違った意識があり、参加者は身体の可能性と多様性を知ることになりました。



京極朋彦 ダンスワークショップ「町角ダンススケッチ 豊橋編」の様子

Report

Artist Profile 2020

敷地 理

Osamu Shikichi



武蔵野美術大学で彫刻を学び、東京藝術大学大学院で身体をメディアとする創作を本格的に始める。2020年、横浜ダンスコレクション2020 コンペティションIにて若手振付家のための在日フランス大使館賞受賞。自分を外側から見るのが不可能な中で、自分と物質的に最も近い他者を通して自分の現実感を捉えることを主題に制作を行う。その過程で身体的臨界状態をつくり、その境界を確認し曖昧にすることに関心を持つ。

滞在期間：2020年7月16日～8月1日

滞在メンバー：敷地 理、大塚郁実、黒田健太、長沼 航、仁田晶凱、モテギミユ

活動内容：『振動する固まり、ゆるんだ境界』リクリエーション、および新作の構想として

ワークショップ：オンラインワークショップ「Digital Garden」(2020年7月18日・23日開催／11名参加)

BATIK

(パティック)



黒田育世 ©池谷友秀

主宰・黒田育世を中心に2002年設立。バレエテクニックを基礎に身体を極限まで追いつめる過激でダイナミックな振付は、踊りが持つ本来的な衝動と結びつき、ジャンルを超えて支持される。黒田は金森稯率いるNoism05への振付や、鮎屋法水、古川日出男、笠井勲、野田秀樹などとのクリエーションも多く、映画『告白』に出演するなど活動は多岐に渡る。

滞在期間：2020年11月23日～12月7日

滞在メンバー：黒田育世、大江麻美子、大熊聡美、岡田玲奈、片山夏波、熊谷理沙、相良知邑、武田晶穂、政岡由衣子、三田真央、瀧本麻璃英

活動内容：『春の祭典』の創作活動として(2022年3月、KAAT神奈川芸術劇場大スタジオにて上演予定)

ワークショップ：『鼻靴下がピアノに聴いた赤い場所のささやかなお話』デモンストレーション&ワークショップ(2020年11月28日・29日開催／51名参加)、『SIDE B』レクチャー&パフォーマンス(2020年11月28日・29日開催／31名参加)

Arche

(アルケー)



井田亜彩実 ©Hiroyasu Daido

2019年、イスラエルのプロダンスカンパニー「MARIA KONG」から帰国した井田亜彩実が旗揚げ。以降、井田が全作品の振付・構成・演出を手掛け、制作を豊永洵子が行う。2019年8月、長久手市文化の家と連携したアートイベント「ARTopia!」を開催するなど多数の企画や公演に参加。現在はオンラインコンテンツも発信するなど、精力的に活動を行っている。

滞在期間：2020年12月14日～27日

滞在メンバー：井田亜彩実、黒須育海、豊永洵子、服部哲郎、杉山絵理、辻本佳、菅井一輝

活動内容：井田亜彩実・黒須育海による新作デュオ作品、および愛知県等在住のダンサーによるグループ作品の創作活動として

ワークショップ：黒須育海 シニア向けダンスワークショップ「香りで身体が動きだす」(2020年12月17日開催／11名参加)、井田亜彩実 イスラエル発！身体開発ダンスワークショップ(2020年12月20日開催／9名参加)

豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2020

京極朋彦

Tomohiko Kyogoku



©junpei iwamoto

京極朋彦ダンス企画主宰。京都造形芸術大学卒業後、国内外の様々な振付家の作品に出演。平成27年度文化庁新進芸術家海外派遣事業研修員。自身が振付、出演するソロダンス「カイロー」は2010年初演以来5カ国11都市で上演された。2017年より兵庫県のある過疎地域に移住。幼稚園、高校の非常勤講師をしながら、地域と芸術を繋ぐ創作を展開している。

滞在期間：2021年1月19日～1月30日

滞在メンバー：京極朋彦、永田桃子

活動内容：『喪服を洗う女』韓国・日本での上演を目指した再創作および地域コミュニティへのリサーチとして

ワークショップ：京極朋彦ダンスワークショップ「町角ダンススケッチ 豊橋編」(2021年1月24日開催／4名参加)

ダンス・レジデンス 2017-2020実施データ

2017年度

[参加アーティスト]
鈴木ユキオ／YUKIO SUZUKI Projects、岡田利規／チェルフィッチュ、浅井信好／月灯りの移動劇場、相模友士郎、中村蓉、平井優子、Rie Tashiro／AYATORI(計7団体)

アーティスト滞在日数:68日
イベント開催日数:20日
レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数:29名
ワークショップの参加者数:142名
成果発表会の参加者数:130名
稽古場公開の参加者数:34名
参加者合計:306人

2018年度

[参加アーティスト]
木村玲奈／「どこかで生まれて、どこかで暮らす。」プロジェクト、工藤聡、Co.山田うん、富士山アネット(計4団体)

アーティスト滞在日数:43日
イベント開催日数:14日
レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数:33名
ワークショップの参加者数:106名
成果発表会の参加者数:47名
稽古場公開の参加者数:184名
参加者合計:337人

2019年度

[参加アーティスト]
振子びじん、康本雅子、白神ももこ、スペースノットブランク、カンパニーデラシネラ(計5団体)

アーティスト滞在日数:61日
イベント開催日数:16日
レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数:18名
ワークショップの参加者数:107名
成果発表会の参加者数:101名
稽古場公開の参加者数:27名
参加者合計:235人

2020年度

[参加アーティスト]
敷地 理、BATIK、Arche、京極朋彦(計4団体)

アーティスト滞在日数:58日
イベント開催日数:13日
レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数:26名
ワークショップの参加者数:117名
成果発表会の参加者数:92名
稽古場公開の参加者数:6名
参加者合計:215人

ダンス・レジデンス2020 市民の声

(アンケートより一部抜粋)

虫の世界を散歩しているようでした。感覚の向こう側、そこを探す動きは、未知でモヤモヤした。でも、言葉にしにくいものが、向こう側なのかもしれないと思った。
(敷地理 成果発表会見学者)

今の世の中のしがらみや、巻き込まれる煩わしさをあらわしているのかなど。座席も舞台もないアトスペースに入れたので面白かった。
(敷地理 成果発表会見学者)

生々しくて、激しくて、女の子の身体、命が清々しいほどにぐちゃぐちゃに輝いて見えました。
(BATIK レクチャー&パフォーマンス参加者・60代)

おじけづいていた私を、奮い立たせてくれた。ダンスは楽しいです。
(BATIK デモンストレーション&ワークショップ参加者・60代)

細胞一つ一つに働きかける、というのが面白くて、体の可能性を感じました。
(井田亜彩実 ワークショップ参加者・50代)

バツゲン!! 大満足!! 香りやイメージから入る踊り。何より楽しかった。
(黒須育海 ワークショップ参加者・60代)

初めて生でダンスを観ましたが、振り付け一つにも、表現したい感情や周りの人の情報などが組みこまれていて知りました。特に「同じダンスは二度と見れない」とトークでおっしゃったところが、非常に印象的で、自分が思うより自由な世界なんだと考えさせられました。
(京極朋彦 成果発表会見学者・20代)

日韓の話がありましたが、振付で点と点は伝えるけれど、それをどう繋ぐのかは永田さん(と韓国のダンサーさん)次第。私はこの時、地球が思い浮かんで、日本と韓国の点と点が繋がっているように感じました。あと最後のカーテン越しの窓が、はじめプロジェクターに映っているのかと思ったのですが、本当の窓でしたね! これもカーテンを越えて、その向こうは韓国かはたまた地球のどこに繋がってるんだろうなあと思いました。
(京極朋彦 成果発表会見学者・30代)

久しぶりにBATIK拝見しました。最高でした。こんな素晴らしいものをタダで見ちゃってスママセン。音との構成がすごく良い。「肉体の檻」という言葉が頭に浮かぶ。
(BATIK 成果発表会見学者・40代)

ダンスは芸術? 皆で同じように踊るのではなく、会話もなく、歌う事もなく、人間の体で表現する作品を見て思うこと。まだ、よくわからないけど、すごいと思った。PLATがなかったら、一生ダンスで表現する舞台には出会わなかったと思いました。
(Arche 成果発表会見学者・60代)

Toyohashi Artist-in-Residence Program Toyohashi Arts Theatre PLAT "Dance-Residence"

Toyohashi

About PLAT

Toyohashi Arts Theatre PLAT is an integrated, multi-space performing-arts facility in Toyohashi City, Aichi Prefecture. Opened on April 30, 2013, PLAT aims to provide a public platform to enhance the cultural life of citizens in the Higashi-Mikawa area through theatre, dance and music. It also provides a welcoming place in which to meet and pursue creative activities. PLAT's Main Hall, a 778-seat auditorium with state-of-the-art equipment, has a wonderful ambience that allows audiences to really feel the atmosphere and perfectly hear voices on the stage. In addition, PLAT's Art-Space is a 266-seat "black box" theatre. This small-scale venue is suitable for theatre, concerts, lectures or other meetings. PLAT also has numerous rooms and a variety of spaces that citizens can use for theatre, dance and music rehearsals, or for exhibitions and conferences.

Outline and objectives

Toyohashi Arts Theatre PLAT is a multi-space performing-arts facility for theatre, dance and music. Toyohashi City in Aichi Prefecture, where PLAT is located, is surrounded by the sea and mountains, meaning it is blessed with a rich natural environment and a mild climate. PLAT has operated its Artist-in-Residence Program since 2017 to draw on this rich environment and support both domestic and foreign artists by providing them with studio spaces and accommodations for around two weeks each for them to create and carry out research for their works. During that period, PLAT also runs workshops and performances with residency artists that enable them to make contact with local citizens. By facilitating such new experiences for both artists and citizens, it is hoped that dance and other creative activities will be encouraged in the Toyohashi City area, in turn enhancing its wider appeal. Every year, artists are selected by PLAT for the Artist-in-Residence Program, and also by open invitation in which applications are invited from the public over three months from February to April. Please see the details on PLAT's website. (www.toyohashi-at.jp)

Facilities•Places

Toyohashi Arts Theatre PLAT

Studio A

Size: 181㎡ (Effective area 164㎡) 10.5m×14m×height 6m

Floor: wooden

Equipment: ballet barre, mirror, sound equipment, soundproof

Studio B

Size: 92㎡ (Effective area 67㎡) 8m×8.5m×height 6.3m

Floor: wooden

Equipment: ballet barre, mirror, sound equipment, soundproof

Application requirements

Applicants need to fulfill the following conditions:

- 1) Individuals or groups must be able to stay in Toyohashi City and work at PLAT during the period.
- 2) Individuals must be at least 20 years old, including all members of groups.
- 3) Applicants must be able to speak and understand basic Japanese and/or English.

Eligible Artist-in-Residence activities

- 1) Physical performance arts such as dance, and other creative performance-art works.
- 2) Practical activities: Assessments are based on a person or a group's past record, such as their performance history, management system, budget planning, scale of activity, scheduling and progress control.

Please note: We don't require applicants to actually perform works resulting from the Artist-in-Residence program.

Activities not eligible for the Artist-in-Residence Program:

- Activities not involving a creative process
- Activities by a cultural circle, student circle or club
- Activities aimed at collecting contributions for charities
- Activities making revenue for specific companies or groups

Support for artists-in-residence

PLAT will provide creating spaces and accommodations for artists-in-residence and cover the following expenses up to a certain limit.

- 1) Artists can use PLAT studios free of charge.
- 2) Artists can stay at any specified accommodations — e.g. A house in Toyohashi with 5 rooms (kitchen, bathroom, garden, 1 tatami room, 4 Western rooms).
- 3) Transportation expenses (both ways) from artists' home residences, which must be in Japan. There is an upper limit to this amount.
- 4) Daily living expense (¥3,500/day)
- 5) Fees for workshop lecturers (with conditions).

Requirements

- 1) Artists need to cooperate with PLAT and participate in the following events, as well as communicating with local citizens and pursuing their own creative works.
 - ① Workshops for local citizens
 - ② Open rehearsals
 - ③ Artists must present performances and/or give talks at the end of the Artist-in-Residence Program
- 2) Artists are expected to actively promote the Artist-in-Residence Program within and outside Japan.
- 3) Artists who later perform works developed through the program are required to include "Supported by Toyohashi Arts Theatre PLAT, Toyohashi City" in all PR materials.
- 4) Artists are required to cooperate with publicity for PLAT's Artist-in-Residence Program and accept the use of their photos and videos for that purpose. However, royalties for all works belong to the artists.
- 5) Artists should at all times try to communicate smoothly with PLAT's staff by mail and/or verbally.
- 6) Artists should take care of their own health, including their diet, washing and overall cleanliness.
- 7) Artists need to follow official guidance issued by PLAT on Covid-19 countermeasures.

(Reference)

About PLAT

<https://www.toyohashi-at.jp/en/aboutus.html>

Rehearsal Room

<https://www.toyohashi-at.jp/en/rehearsal.html>

(Organizer)

Toyohashi City, Toyohashi Cultural Foundation

(Access)

Toyohashi Arts Theatre PLAT

123 Nishiodawaracho, Toyohashi City, Aichi, JAPAN 440-0887

Tel: +81-(0)532-39-8810 / Fax: +81-(0)532-55-8192

info@toyohashi-at.jp



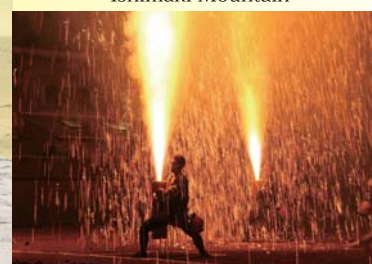
Momoko Shiraga and Yukiko Nishii research movements of their bodies by the sea on the Omotehama coast.



Ishimaki Mountain



City Tram



Large Handheld Fountain Fireworks



Toyogawa River





劇場で会える喜び



◀QRコードを読み込むだけで
コンセプトムービーと本誌
データダウンロードサイトへ!



豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2020
〈ダンス・レジデンス〉事業報告書
2021年3月発行

発行：豊橋市／公益財団法人豊橋文化振興財団

